

札幌市立北白石中学校の取組【読書：図書館活用授業】

1. 研究のねらい

札幌市立学校において唯一、小・中学校合築校舎である本校は、一つの図書館を共有している。だが、今まではそれを生かすことがなく、互いの本を貸し借りするようなことはなかった。そこで、昨年度から、小学校 5、6 年生を対象に中学校の本の貸出を行うことにした。

本校の生徒は読書活動を行う際、真剣に本に向き合うことができ、朝読書は全ての学級で行い、集中して本に向かっている。また、図書館の貸出冊数も昨年度に比べ、貸出冊数の延べ人数は、2.2 倍、実人数は 1.8 倍と増加している。反面、来館する生徒が固定化しており、また、小学校から中学校へ上がると貸出冊数が減少するという実態がある。

そこで、来館者を増やすために、小学生やまだ図書館に来館したことのない生徒に向けてポップを作成し、相手を意識して、自分の考えを伝える力を目指した。

2. 取組内容

国語科の授業の中で

中学 1 年生 読書活動「私が選んだこの 1 冊」－『読書紹介をしよう』

中学 1 年生「私が選んだこの 1 冊」から、図書館内にある本から小学生に読んでほしい本を選び、紹介する活動に取り組んだ。教科書ではお気に入りの本から紹介するのだが、あえて図書館内に限定をした。また、紹介方法としてポップ・紹介箱・スピーチを選択するのだが、今回は「ポップ＋スピーチ」のスタイルをとることにした。

① ポップ作成

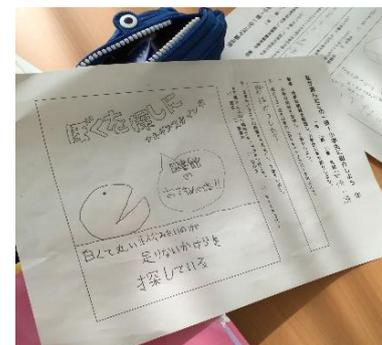
ポップを作成する際に言語活動の「課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して本を紹介すること」を目標にした。

その際、教科書「光る地平線」を読み、自分たちの心に残った部分に線を引き、引用についての説明をし、正確に引用するように指導をした。

作成に際して、ポップは他の紹介方法に比べて情報量が少ないので、必要な情報にしばってまとめることを意識させた。レイアウトも考えさせ、イラストや文章を書かせた。

② スピーチ

スピーチではポップをもとにメモを作成し、小学生に向けた内容になるよう、ふさわしい語句について理解し、発



表時にどのように活用するか考えた。また、効果的にポップを示すにはどのような工夫をしたらよいのかを考え、自分の考えが伝わるように班内でスピーチを行った。スピーチ終了後、アドバイスカードを記入し、班員同士で感想の交流を行い、各自のスピーチを振り返った。

なお、作成したポップは館内に掲示した。



3. 成果と課題

(1) 成果

今回の授業を実施して、図書館に初めて来館したという生徒の方が多かった。授業後、友人がスピーチで紹介した本を読みたい、借りたいという生徒が増え、1年生全体の来館者数は授業を行う前と比較すると2倍以上にもなった。

また、館内に掲示したポップの効果もあり、北白石小学校の高学年や本校の2、3年生の生徒も来館が増え、貸出冊数の増加につながった。

さらに、今までは文学に人気が集まっていたのだが、さまざまなジャンルの貸出も増え、図書館が活気づいている。また、図書委員会もこの取組に刺激を受け、自らの推薦する本のポップを作成したり、友人に紹介する姿も見られたりするようになってきている。



(2) 課題

今回はポップ作成とスピーチを両方行うというスタイルをとったのだが、ポップにこだわりすぎ、スピーチが原稿を見て発表するというスピーチらしくない活動になってしまった。どちらかに絞った内容の方が、生徒の活動にも余裕が生まれ、よりよいものが出来上がったのではないかと考える。

次年度以降もこの取組を継続していきたいと考えており、その際には、3年間を見通した計画を立てる必要があることを実感している。

一方で、今もなお、図書館の場所を知らない生徒がいたり、読みたい本がないから図書館に来ないという声もある。今後はそのような声にどう応えるかを、司書教諭、国語科だけではなく、全校で考えていく必要がある。